

# 大東文化大学 語学教育研究所報

No. 49      2026年3月

## 目次

2025（令和7）年度活動報告 .....	2
2025年度 語学教育研究所運営委員及び研究員 .....	3
研究員紹介 .....	3
客員研究員 .....	4
特別研究員 .....	4
研究発表会 .....	4
講演会 .....	7
『語学教育研究論叢』第43号募集要項.....	9
『語学教育フォーラム』第40号原稿募集のお知らせ.....	10
購入図書一覧.....	11
刊行物についてお知らせ.....	12

## 2025（令和7）年度活動報告

語学教育研究所所長

藏中 しのぶ

1983（昭和58）年に創設された語学教育研究所（以下、語研）は、本年（令和7年）、創立42周年を迎えました。40周年記念プロジェクト『語学教育研究論叢』（1号～40号）総目録・索引検索データベース、『語学教育研究論叢』第42号・語研創設40周年記念号に引き続き、今年度は第43号を刊行いたしました。第43号掲載論文13本の内訳は、論文12本、研究ノート1本です。職位別では、専任教員9名、非常勤講師1名、語学教育研究所特別研究員1名、大学院生2名、中国語・英語・日本語・ドイツ語・フランス語の5つの語種の分野別では、中国語学（近代漢語2本・文字音韻・現代文法2本、うち日中対照1本）、英語学（英語教育史・現代文法）、フランス文学、日本語学（現代文法・方言学）、日本語教育学・多文化共生学、日本言語文化学（文学）で、いずれも最新の研究にもとづく独創的な力作を掲載いたしました。第43号編集委員長の宮本めぐみ講師をはじめ、丁寧に指導的査読をしてくださった査読担当の先生方には、格別のお力添えをたまわりました。第43号刊行のためにさまざま御尽力くださった皆様に厚く御礼を申し上げます。

今年度の研究発表会は4回、研究員7名と語学教育研究所特別研究員1名による最新の研究成果が披露されました。そのテーマは言語学・文献言語学、言語教育、近代教育史・国際交流史、データベースを活用した文化史・芸術史などさまざまな分野に及び、外国語学部の教育研究と学術交流を大いに推進いたしました。

中国語・英語・日本語・ドイツ語・フランス語の5部会による講演会は、Zoomによるオンライン開催が3件、対面での実施は2件でした。とりわけ、フランス語部会の講演会は、東松山キャンパスにおいて、外国語学部・外国語学研究科の院生・学部生にも広く公開され、大きな成果を収めました。講演会の講師（敬称略）および演題は、寺沢拓敬「英語教育改革の「切り札」はあるのか」、坂井美日「方言AI開発の現状と課題について」、中嶋幹起「満洲語の楽しみー《清文啓蒙》を再読する」、フランク・リースナー「もうひとつのドイツでの日常生活」、郡山総一郎「写真で世界を伝えるということ」の5件で、いずれも時事性・国際性豊かな興味深い有意義な内容の御講演をたまわり、この場を借りて深く感謝申し上げます。

活発な研究活動を展開してくださった研究部会長の荒又雄介先生をはじめ、運営委員の森路未央先生・淡路佳昌先生・C.シュパング先生・白井春人先生・大塚貴史先生及び関係各位の多大なるご支援に深く感謝申し上げます。

今年度も、すべての業務が、計画通り、滞りなく遂行されました。これもひとえに運営委員・研究員、外国語学部事務室語学教育研究所担当の笠原みずき様、語学教育研究所事務の田中日夢花様はじめ、事務職員の皆様方の御協力と御尽力のたまものと、心より厚く御礼申し上げます。1年間大変お世話になりました。来年度（2026）も引き続き、研究活動および情報発信の充実に努めてまいります。今後とも、語学教育研究所をどうぞよろしくお願い申し上げます。

## 2025年度 語学教育研究所運営委員及び研究員

### 2025年度 語学教育研究所運営委員

所 長	藏中 しのぶ	外国語学部日本語学科
研究部会長	荒又 雄介	外国語学部英語学科
学 部 長	山口 直人	外国語学部中国語学科
学科主任	竹島 毅	外国語学部中国語学科
学科主任	姫田 麻利子	外国語学部英語学科
学科主任	田崎 敦子	外国語学部日本語学科
研究科委員長	鈴木 敬了	外国語学部英語学科
委 員	森 路未央	外国語学部中国語学科
委 員	淡路 佳昌	外国語学部英語学科
委 員	C. シュパング	外国語学部英語学科
委 員	白井 春人	外国語学部英語学科
委 員	大塚 貴史	外国語学部日本語学科

### 2025年度 語学教育研究所研究員

部会長	荒又 雄介	外国語学部英語学科
研究員	宮本 めぐみ	外国語学部中国語学科
研究員	楊 璇	外国語学部中国語学科
研究員	大津 明子	外国語学部英語学科
研究員	ジェフリー マーティン	外国語学部英語学科
研究員	フランソワ ルーセル	外国語学部英語学科
研究員	カルリノ サルバトーレ	外国語学部日本語学科

## 研究員紹介

氏名： 荒又 雄介

所属： 外国語学部英語学科（ドイツ語）

分野： ドナウ川と流域諸都市

氏名： 宮本 めぐみ

所属： 外国語学部中国語学科（中国語）

分野： 中国近現代文学

氏名： 楊 璇

所属： 外国語学部中国語学科（中国語）

分野： 中国語学

氏名： 大津 明子

所属： 外国語学部英語学科（英語）

分野： 英語教育学、応用言語学

氏名： ジェフリー マーティン

所属： 外国語学部英語学科（英語）

分野： 応用言語学、学習方略

氏名： フランソワ ルーセル

所属： 外国語学部英語学科（フランス語）

分野： 教育史／フランス語教育

氏名： カルリノ サルバトーレ

所属： 外国語学部日本語学科（日本語）

分野： フィールド言語学・日琉諸語の記述研究・  
言語ドキュメンテーションの作成

## 客員研究員

氏名：白 暁帆

期間：2025年10月1日～2026年9月30日

研究テーマ：日本における漢籍合璧工程

氏名：ポール アルピタ

期間：2025年11月15日～2026年11月14日

研究テーマ：北村透谷とシャンカラの非二元論的世界  
観：ブラフマンへの探求

## 特別研究員

氏名：趙 丹楠

期間：2025年4月1日～2026年3月31日

研究テーマ：依頼表現の丁寧度に影響する要因

## 研究発表会

### 第1回

日時：2025年6月2日（月）

#### 第1発表

発表者：カルリノ サルバトーレ

題目：南琉球宮古語久松方言の格助詞についての初期報告  
—久貝を中心に—

概要：本発表は、久松方言の格助詞についての初期報告である。久松方言は南琉球宮古語に属しており、久松で話されている。久松は宮古島平良市の地区であり、松原と久貝という2つの集落からなるが、本発表では久貝に着目する。本発表のデータは現地調査で質問調査によって収集された。調査協力者は久貝方言の70代の男性2名である。本発表では主格助詞=ga と=nu の交替を中心に、久松方言の格標示について報告する。

#### 第2発表

発表者：フランソワ ルーセル

題目：日本におけるフランス学校の歴史研究：

消えた神戸フランス学校（1982～1984年）の事例から

概要：1982年に神戸で設立された西日本初のフルタイム仏学校は、熱心な保護者の尽力と大阪・神戸総領事館の協力により実現し、最大19名の児童が在籍したが、教員派遣の遅れや国家補助金の不履行、生徒数の急減など複数の要因が重なり、1984年に閉校した。ナントの外交史料館に保管された仏大使館文化部の47件（計96ページ）に及ぶ文書をもとに、その経緯と歴史的意義を再検討する。

## 第2回

日時：2025年10月27日（月）

### 第1発表

発表者：楊 璇

題目：《満漢成語對待》における重畳式について

—AABB・ABAB 構造を中心に

概要：本発表は、康熙四十一年（1702年）に刊行された満漢合璧文献《満漢成語對待》を資料とし、中国語の重畳式（AABB・ABAB 構造）を中心に探求したものである。重畳式を形容詞、副詞、動詞などに分類し、対応する満洲語表現との関係を分析した。その結果、重畳式の中には、満洲語の発音を模して中国語の音を当てた例がいくつか確認された。また、一部の重畳式は本書のみに見られ、同時代の北京官話資料には現れていないことも指摘したい。

### 第2発表

発表者：荒又 雄介

題目：オーストリア国立図書館のデジタルアーカイブ

—ウィーン宮廷歌劇場の上演資料を例に

概要：近代文学が信頼性の高いテキストを残すのに対し、舞台芸術の上演実態は大抵、短期間で分からなくなってしまふ。台本や総譜を基盤としつつも、演出家・演者・技術スタッフらの協働によって成立する舞台は、上演の後、たちまち消滅してしまうからである。とはいえ、劇場に残された資料や新聞雑誌の報道には、消え去った舞台の痕跡がわずかに残っている。本発表は、十九世紀末ウィーンにおける舞台芸術の制作と受容の様相の一端を、デジタルアーカイブを用いて解明する試みである。

## 第3回

日時：2025年11月17日（月）

### 第1発表

発表者：宮本 めぐみ

題目：倉石武四郎の「ラテン化新文字による」中国語教育と謝冰心

概要：本発表は倉石武四郎著『ラテン化新文字による中国語初級教本』（1953年）とその本文の音声収録したレコードについて紹介するものである。この教本は日本人が苦手とする中国語の発音の修得に重点を置き、本文をラテン化新文字（ローマ字）で表記し、声調（声の高低・強弱）を波状の線で示すという新しい試みが行われている。レコードの音声の吹き込みには著名な作家謝冰心とその娘たち、友人たちが参加しており、倉石と謝冰心の交流の一端を示す資料でもある。

## 第2発表

発表者：趙 丹楠

題 目：依頼表現のポライトネスにおける中国人日本語学習者の選択

概 要：本研究では、日本語母語話者（JJ）と中国人日本語学習者（CJL）が使用する依頼表現のポライトネスの度合いを5段階評価で考察した。その結果、①丁寧度の幅で見ると、JJはCJLより大きいこと。②全体の平均値で見ると、CJLはJJより丁寧度が高い依頼表現を使用していること。③特に「クラスメート」と「後輩」に対して、CJLはJJより丁寧度が高いこと。④CJLは過剰に丁寧な表現を使用することから、使用上の過剰一般化の現象が見られた。

## 第4回

日 時：2025年12月22日（月）

### 第1発表

発表者：大津 明子

題 目：Global Englishes の概念を英語教育に導入することの可能性

概 要：本発表では、Global Englishes すなわち①世界で使われている多様な英語と②英語を共通語とする多言語話者同士のコミュニケーションの実態の視点を、英語教育にどのように導入することができるか考察する。特に、一般の大学生を対象とした英語教科書の内容分析と、新しい教材作成を手がける際に留意したい事項を論じる。

### 第2発表

発表者：ジェフリー マーティン

題 目：Reducing Measurement Noise in L2 Vocabulary Assessment:  
Word Lists, Format, and Modality

概 要：語彙評価は語彙カバー率とL2理解に関する研究の基盤である。しかし、よく引用される98%と95%の閾値の差は50語中1~2語に過ぎず、測定への注意が求められる。本発表では測定誤差の三つの原因について報告する。(1)頻度が語彙知識を十分予測しない点、(2)マッチング形式がテスト方略を許容する点、(3)文字語彙と音声語彙に有意な差がある点である。個人差は不可避だが、測定誤差は削減可能である。

## 第1回

日 時：令和7年9月27日（土）

場 所：Zoomによるオンライン開催

講演者：寺沢 拓敬 氏

演 題：英語教育改革の「切り札」はあるのか

概 要：「○○という革新的な英語教育プログラムがあるらしい。我が国（or わが街）もこれを導入すれば劇的に改善する！」——こうした楽観的な改革観は、行政やマスメディアだけでなく、学術界にも根強く存在してきた。しかし本講演では、その幻想を問い直す。「英語教育に切り札はない。あるのは、試行錯誤を伴う地道な改革のみである」という立場から、小学校英語や入試改革といった具体的事例を検討し、「切り札」的思考の危うさを論じる。実証的・理論的研究に依拠しながら、不適切な学術コミュニケーション、効果検証の軽視、政策・学術リソースの浪費といった問題を検討し、そのうえで、地味ではあるが穏当な対処策を提示する。

## 第2回

日 時：令和7年11月18日（火）

場 所：Zoomによるオンライン開催

講演者：坂井 美日 氏

演 題：方言 AI 開発の現状と課題について

概 要：本講演では、方言 AI の活動について報告と議論をおこないたい。講演者は、消滅危機にある鹿児島方言の継承・教育に向け、生成 AI を学習支援として開発し活用する取り組みをおこなっている。生成 AI のベースである LLM は、低資源言語・方言をうまく扱えないという問題がある。この克服に「言語学の3点セット」（辞書・例文・文法書）が有効であることを発見し、生成の可用性を大幅に改善することができた。この成果を基盤に、方言チャットボット、対話エージェント、ロボット、TTS への応用を進め、市民参加型のデータ改善循環（Karukan プロジェクト）で社会実装を図っている。

## 第3回

日 時：令和7年11月30日（日）

場 所：Zoomによるオンライン開催

講演者：中嶋 幹起 氏

演 題：満洲語の楽しみ — 《清文啓蒙》を再読する

概 要：中国の清王朝は漢族とは異なる異民族王朝であった。満洲族の満洲語は国語であり、支配言語であった。その時代に民間で刊行された学習書、《清文啓蒙》を取り上げて冒頭の第一字頭の「文字と発音」に相当する部分を中心に解説する。その異形の字形と書面語の文字は丁寧な説明を要する。中国の西北部の一地区で満洲語は生きた言語であることを除けば、もはや消滅に瀕した状態にある。それを学習するのはどんな意味があるのか。中国には膨大な満洲語文献資料が残されていて、かたよりのない中国の歴史・文化の解明には満洲文語を理解することが必要の要件であることを述べたい。

#### 第4回

日 時：令和7年12月18日（木）

場 所：大東文化大学東松山キャンパス6号館601教室

講演者：フランク リースナー 氏

演 題：もうひとつのドイツでの日常生活

概 要：1945年から1990年まで、東には社会主義のドイツ民主共和国、西には資本主義のドイツ連邦共和国という、2つのドイツ国家が存在していました。1990年のドイツ再統一は、ドイツの歴史における画期的な政治的出来事でした。再統一後、西側の価値観が新たな基準となったため、多くの東ドイツの人々のこれまでの功績は価値のないものとなってしまいました。では、統一前の東ドイツの生活はどのようなものだったのでしょうか？現実には、この社会主義国家では、他に選択肢がなかったため、ほとんどの人がある程度その社会に溶け込んでいました。彼らは、異なる条件の下で生活していたのです。その具体的な様子については、この講演で、当時の目撃者からの話から知ることができます。東ドイツの日常生活について、直接、その体験から学ぶまたとない機会です。

#### 第5回

日 時：令和7年12月18日（木）

場 所：大東文化大学東松山キャンパス6号館601教室

講演者：郡山 総一郎 氏

演 題：写真で世界を伝えるということ

概 要：写真家は世界の「現実」と日々向き合っています。紛争地や災害現場での取材、撮ることの倫理、そして記録する事——その写真に込められるものは何か。本講演では、これまでの取材経験をもとに、記録するという行為の意味、そして報道写真が私たちにもたらす問いについて語ります。

# 原稿募集要項

## 語学教育研究論叢第43号

語学教育研究所所長 藏中 しのぶ  
論叢編集委員長 宮本 めぐみ

下記の通り原稿を募集します。奮って御執筆くださるようお願い致します。

内 容： 言語研究・語学教育に関する論文（書評、研究ノート、資料等も可とする）。  
文学作品等を対象とする言語学・文献学等の方法を駆使した研究も含む。

資 格： 1. 本学外国語学部専任教員（客員教員、特任教員、助教を含む）  
2. 本学外国語学部非常勤教員  
3. 共同研究の場合は第一執筆者が該当者であること  
4. 客員研究員、学外研究員、特別研究員  
5. 本学大学院外国語学研究科博士課程後期課程に在籍の学生（推薦書が必要）  
6. その他編集委員会が適格者として認めたもの（推薦書を必要とする場合もある）  
※ 応募論文多数の場合は上記番号順に優先権を有する。



語学教育研究所 HP

投稿申込： 2025年5月13日（火）から2025年7月15日（火）15：00迄（必着）

「執筆申込書」をメールで添付送付すること。

To：語学教育研究所 daitogoken@gmail.com Cc：編集委員長 miyamoto@ic.daito.ac.jp

所定の用紙： 執筆申込及び原稿提出の際に必要な以下の所定の書類は、語学教育研究所のHPに掲載する。  
執筆申込書、原稿フォーマット、大東文化大学機関リポジトリ登録・公開許諾書、指導教員推薦書  
語学教育研究所 HP <https://www.daito.ac.jp/research/laboratory/goken/>

原稿提出締切： 2025年9月12日（金）15：00迄（必着）

原稿提出先： 語学教育研究所 daitogoken@gmail.com 宛にメールで添付送付すること。

メール送付できない場合は、レターパックライト（青）による郵送での提出も可とする。

その場合は紙版とともにCD-Rなどのデータファイルを同封すること。

大東文化大学 語学教育研究所 〒175-8571 東京都板橋区高島平 1-9-1（Tel：03-5399-7330）

原稿と一緒に提出するもの

(1)大東文化大学機関リポジトリ登録・公開許諾書

※Excelデータの状態で、語学教育研究所宛にメールで添付送付すること。

(2)指導教員の推薦書

※大学院後期課程の学生のみ、メール添付で提出、その際指導教員のアドレスをCcで入れること。

投稿規程： 1. 未発表の完成された原稿であること。

2. ワードプロ原稿とする。横書き全角38字・35行、欧文の場合は半角70字・35行、それぞれA4用紙15枚以内とする（図版・レジュメを含む）。原則、HPの原稿フォーマットを使用のこと。指定ファイル以外の場合、フォント・サイズ等は原稿フォーマットのレイアウトと同様の設定をすること。1ページあたりの文字数・行数等の規定を遵守せず、最終的に15ページを超えてしまった場合は、掲載をお断りする。書式、表記など、甚だしい誤字脱字などがある場合、受け付けないことがある。

3. 本文以外の言語のレジュメを論文の前に付すこと。欧文のレジュメの場合もそれに準ずる。（日本語、中国語は400字以内、欧文は300語以内）また、キーワードを5語前後、列挙すること。（本文の言語による）

4. 論文の題目は日本語及び中国語原稿には欧文、欧文原稿には日本語を付記する。

5. 欧文タイトルの書式は、編集委員会に一任すること。

6. 印刷所等は語学教育研究所に一任すること。

7. 抜刷り贈呈は20部とする。増刷分は個人負担とし、執筆申込書に増刷部数を明記する。

8. 提出された原稿の審査による採否及び、ジャンルの特定は一切編集委員会に任せること。

9. 母語でない言語での論文については、題目、要旨も含めて必ずネイティブ・チェックを受けること。

10. 投稿時には謝辞、補助金、執筆者が特定される記述等を書かないこと。謝辞等については、掲載が決まり、査読後の修正原稿提出時に規定のページを超えない範囲で加筆してよい。

校 正： 著者による校正は二校までとし、紙での校正を原則とする。内容、ヘッダー及びページ番号など、関連付随事項に関して、著者の責任において校正のこと。各校正の提出期限までに未提出の場合は、掲載を見合わせる場合がある。新規加筆は認められない。

発 行 日： 2026年3月発行予定

問い合わせ先： 語学教育研究論叢 編集委員長 宮本めぐみ（E-mail：miyamoto@ic.daito.ac.jp）

以上

2025年5月6日

## 2025年度『語学教育フォーラム』第40号原稿募集のお知らせ

大東文化大学語学教育研究所  
所 長 藏中 しのぶ  
『語学教育フォーラム』第40号  
編集委員長 大津 明子

『語学教育フォーラム』第40号（2026年3月刊行予定）の原稿を下記の要領で募集いたします。

### 記

1. 募集原稿は、言語学・言語教育に関する論文（未発表のもの）、索引、未刊行言語資料の復刻、研究資料要覧、言語研究・教育に有益なデータ類、文学作品の言語学的分析等の分野のものとしします。
2. 応募資格は著者、筆頭著者、または筆頭編者が以下の所属であることとしします。ただし、編著の場合は編者が、共編著の場合は筆頭編者が応募資格を有することとしします。また、優先順位は下記番号順とし、本制度を今までに利用されていない方を優先しします。
  - ① 語学教育研究所研究員
  - ② 外国語学部専任教員（客員教員・特任教員・助教を含む）
  - ③ 語学教育研究所客員研究員
  - ④ 外国語学部客員研究員
  - ⑤ 外国語学研究科客員研究員
  - ⑥ 他学部専任教員
3. 刊行形態としては以下の通りとしします。（ただし、予算の関係上、変更を求める場合があります。）  
ワープロ A4 判で、200 枚以内のもの。単体での刊行を原則としします。ただし、応募状況によっては複数論文から成る論文集として刊行しします。和文・中文は 35 字×40 行、欧文は 65 字×40 行を目安としします。
4. 原稿は電子データとして提出してください。また、併せて印刷見本 1 部と PDF ファイルを提出してください。電子データの提出がない場合には受付できません。なお、電子データは原則として Microsoft Word 形式としします。それ以外の形式で提出された場合には、最終的な編集作業にご協力いただくことがあります。
5. 外国語による出版を希望される場合、ネイティブチェックを済ませた原稿を提出してください。なお、ネイティブチェックにかかる費用は著者の負担となります。
6. 完成原稿（カメラレディ原稿）を提出してください。校正はありません。
7. 執筆申込につきましては、執筆申込書を 2025年5月7日（水）～7月16日（水）15:00 迄に語学教育研究所まで提出してください。なお、執筆申込書は語学教育研究所の HP に掲載しします。
8. 完成原稿は 2025年10月10日（金）～11月7日（金）15:00 迄に語学教育研究所まで提出ください（期限厳守をお願いします）。
9. 応募原稿は、研究所所長、語学教育フォーラム編集委員長および当研究所が依頼した審査委員によって審査をいたします。その結果によっては刊行不可能となる場合もございます。なお、審査結果は文書にて 12 月下旬（予定）までに通知いたします。応募論文数と予算との兼ね合いで、必要な場合には調整をさせていただく場合があります。
10. 本研究所の予算の制約により、審査で刊行可となった原稿が刊行に至らなかった場合、応募者が本研究所の指定に基づいて製作し、現物納入した完成誌を、本研究所は『語学教育フォーラム』として刊行できるものとしします。

ご不明な点がございましたら、語学教育フォーラム編集委員長（akiko@ic.daito.ac.jp）および所長（kuranaka@ic.daito.ac.jp）までお問い合わせ下さい。

以上

## 購入図書一覧

分野	書籍名	著者等	出版社
中国語	満語全書(漢文満文)	郭秀昌, 何榮偉	遼寧民族出版社
中国語	无圈点満文	趙志强	中国社会科学出版社
中国語	清代満語语言文字研究概論満文文献選読	朝克	中国社会科学出版社
中国語	満語研究	朝克, 王敵非等	中国社会科学出版社
中国語	満文文献選読	江橋	中国社会科学出版社
中国語	究極の中国語リスニング Vol. 1	上野振宇等	アルク
中国語	中国語における“把”構文の研究—連語論の視点から	小路口ゆみ	白帝社
中国語	満語対清代旗人漢語の語法干渉研究	張俊閣 著	商務印書館
中国語	实用満語会話	朝克、王敵非 著	中国社会科学出版社
英語	The Cambridge Handbook of World Englishes	Schreier, Daniel	Cambridge University Press
英語	英語の社会言語学入門 English Sociolinguistics : An Introduction	Schreier, Daniel	Cambridge University Press
英語	The Routledge Handbook of Sociolinguistics Around the World	Edited By Martin J. Ball, Rajend Mesthrie, Chiara Meluzzi	Routledge
英語	English-Medium Instruction from an English as a Lingua Franca Perspective	Kumiko Murata	Routledge
ドイツ語	Hofmannsthals Lustspielfragment „Silvia im ›Stern‹“ : Dramatische Verschwiegenheit und Anfänge einer Komödienästhetik	Solvi, Pauline	Ergon-Verlag (Verlag)
ドイツ語	Dichter am Werk - Dichter im Werk Historische Schriftsteller als Figuren in der deutschsprachigen Gegenwartsliteratur. Poetik und Episteme Bd.9.	Beck, Davina	Königshausen & Neumann
ドイツ語	"Bin ich eigentlich jemand, den man heiraten kann?": Briefwechsel 1896-1929	Gerty von Hofmannsthal, Hugo von Hofmannsthal ; herausgegeben von Nicoletta	S. Fischer Verlag (Verlag)
ドイツ語	Theorie des lyrischen Gedichts Eine Einführung.	Lamping, Dieter	J.B. Metzler
フランス語	Critical Reflections on Research Methods: Power and Equity in Complex Multilingual Contexts (2019)	Doris S. Warriner (Edited by), Martha Bigelow (Edited by)	Multilingual Matters
フランス語	Learning and Using Languages in Ethnographic Research (2019)	Robert Gibb (Edited by), Annabel Tremlett (Edited by), Julien Danero Iglesias (Edited by)	Multilingual Matters
フランス語	The Politics of Researching Multilingually (2022)	Prue Holmes (Edited by), Judith Reynolds (Edited by), Sara Ganassin (Edited by)	Multilingual Matters
フランス語	Speaking Subjects in Multilingualism Research: Biographical and Speaker-centred Approaches (2022)	Judith Purkharthofer (Edited by), Mi-Cha Flubacher (Edited by)	Multilingual Matters
フランス語	Researching Multilingually: Conceptual and Methodological Failures, Struggles and Successes (2025)	Bridget Goodman (Edited by), Brian Seilstad (Edited by)	Multilingual Matters
フランス語	[LFF A2] CONTEs (2011)	Charles PERRAULT	Hachette FLE
フランス語	Lectures CLE en français facile - Les Misérables (2016)	Victor HUGO	CLE INTERNATIONAL
日本語	A New Grammar of Dyrbal	Dixon, R. M. W.	Oxford University Press
日本語	シリーズ記述文法2パラウク・ワ語	山田敦士	くろしお出版
日本語	一般言語学から見た日本語の音韻構造	窪園晴夫	くろしお出版
日本語	Linguistic Fieldwork : A Practical Guide	Bowern, Claire	Palgrave Macmillan
日本語	Linguistic Fieldwork : A Student Guide	Sakel, Jeanette/ Everett, Daniel L.	Cambridge University Press
日本語	社会言語学25号	-	「社会言語学」刊行会
日本語	言語研究のためのプログラミング入門: Pythonを活用したテキスト処理	浅尾 仁彦 (著), 李 在鎬 (著)	(株)開拓社

## 刊行物についてお知らせ

『語学教育研究論叢』第43号（2026年3月刊行）

『語学教育フォーラム』第40号（2026年3月刊行）

藤田ラウンド幸世先生著

『消滅危機言語の言語継承と「ことば」の教育に向けて 一みゃーくふつ（宮古語）話者たちとの協働と実践の記録一』

令和8年5月に『語学教育研究論叢』第44号、『語学教育フォーラム』第41号の原稿を募集します。奮ってご応募ください。

お気づきの点がございましたら当研究所までお知らせください。

以上

大東文化大学語学教育研究所所報 No. 49

2026年3月1日

編集発行 大東文化大学語学教育研究所

〒175-8571 東京都板橋区高島平 1-9-1

電話 03-5399-7330

E-mail: [daitogoken@gmail.com](mailto:daitogoken@gmail.com)

<https://www.daito.ac.jp/research/laboratory/goken/>